

「カブトムシ里親まつり（放虫編）」を 開催しました!!

緊急事態宣言も明けた10月3日(日)に、秋晴れのもと、箕面エキスポの森「花の谷」(箕面国有林)で『カブトムシ里親まつり』を開催しました。

『カブトムシ里親まつり』とは、NPOクワガタ探検隊とふれあいセンターが連携し令和元年から毎年実施している恒例のイベントです。夏に実施した『カブトムシ里親まつり』(飼育編)に参加いただいた御家族の皆さんお集まりいただきました。

この夏の間カブトムシの飼育を行っていただき、その幼虫となるこの秋に『カブトムシ里親まつり』(放虫編)として育てた子どもたちを来年に向けて林内に設置してある昆虫ベッドに戻すイベントです。今年度は心地よい秋風に吹かれながら前回(6月27日(日))のイベントに参加していただいた4家族13名の皆さんに参加していただきました。高山所長からの歓迎の挨拶の後、NPOクワガタ探検隊による創作紙芝居『カブトムシになれなかったミヤマくん』を車座になって見せていただきました。そのあと「花の谷」のビオトープ(池)で水生昆虫の採集をしました。網を持って、普段は目にしない水の中の住人たちにご対面。そして、いよいよ今回のメインイベント今まで大切に育ててきたカブトムシの幼虫を、昆虫ベッドに戻しました。幼虫たちは、子どもたちの手で土の上にそっと置かれると、モゾモゾとゆっくりとでも確実に土の中に潜っていきました。



熱心に紙芝居を聞く子どもたち



池での水生昆虫採集



各御家庭で育てられたカブトムシの幼虫を放虫



参加者の皆様

参加した皆さんからは、「元気で大きくなってね」「立派なカブトムシになってね」と声をかけていました。箕面森林ふれあい推進センターでは、今後も様々な機会を通じて、皆様が自然に触れ合えるような場を提供していきます。



吉野林業並びに大台ヶ原現地視察

10月12日(火)から13日(水)にかけて、職員7名で、吉野地域の現地視察に行ってきました。初日は、代表的な林業地である吉野林業を視察するため、奈良県川上村を訪れました。川上村では、林業に関わる様々な団体で構成されている「(一社)吉野かわかみ社中」の方から「川上村の林業・木材業活性化の取組」について、お話しいただき、吉野林業の現状や新たな事業展開について学ぶことができました。午後からは、村有林で「歴史の証人」と呼ばれている樹齢250～400年生のスギ・ヒノキの人工林を見学させていただきました。これらは、江戸時代に植林され、全国的に見ても最も古い部類に入る森林だと言われています。約1時間かけて急な斜面を登り続けると、大人4人でも囲めないほどの大きな木々が現れ、長年引き継がれてきた林業という生業を、この目で感じることができました。

2日目は、近畿地方でも有数の自然が残された大台ヶ原を訪れました。ここは雨が多い地域であり、1年の3分の2は雨が降るとも言われています。しかしながら、この日は、時々日差しを感じながら、三重森林管理署が環境省近畿地方環境事務所及び上北山村と連携したニホンジカ捕獲事業並びに植生保護事業などの視察を行うことができました。約半日、現地を歩きながら、年間10万人が訪れるという大台ヶ原の人を呼び込む看板や歩道の工夫や、自然災害や獣害被害を受けた現地での自然再生に向けた取組を学びました。現地を確認することで取組を実際に肌で感じ、自分たちの活動を振り返るとても有意義な視察となりました。

この2日間、林業から自然再生まで、様々な分野の現状を視察することができました。箕面森林ふれあいセンターでは、今回の視察で学んだことをこれからの活動にも参考にしながら展開していきたいと考えております。



川上村現地視察



大台ヶ原 現地視察



大台ヶ原 植生保護のようす



大台ヶ原の風景

